富士の古墳文化

はじめに

静岡県の東部に位置する富士市は、近代以降、豊富な富士山の湧水を使った製紙業を中心に発展してきた工業都市です。その背景には、この地が交通の要衝であったことも要因のひとつと考えらます。

交通の要衝として、原始・古代のころから周辺の集団・文化との活発な交流があり、その痕跡は、富士市内に数多くの遺跡として残されています。

富士市内には国指定史跡である浅間古墳をはじめ、約700基近くの古墳があったと考えられています。その中には調査されずに消滅してしまったものも多く含まれていますが、今でも住宅地の中に古墳が現存する風景を見ることができます。

本書では、富士山南麓に展開した古墳文化をトピックごとに紹介し、当時の原風景を感じ取っていただけれるように構成しました。

最後になりましたが、作成に際し、ご協力いただきました関係機関・関係者の皆様に感謝申し上げます。

目次

はじめに

古墳時代とは／古墳の形／古墳の埋葬施設

静岡県東部の古墳編年

第1章　富士の首長墓　3

浅間古墳／東坂古墳／間門松沢第1号墳

ふくべ塚／天神塚古墳／琴平古墳／山の神古墳

第2章　横穴式石室　11

千人塚古墳／船津古墳群／稲荷塚古墳／船津L-第62号墳

船津L-第206号墳／船津L-第207号墳／実円寺西第1号墳

富士川西岸の古墳群／谷津原古墳群／室野坂古墳群

妙見古墳群

コラム　古墳に副葬された宝物

第3章　地域開発のあゆみ　21

伊勢塚古墳／中原第4号墳／横沢古墳／国久保古墳

東平第1号墳／西平第1号墳／一色D-第35号墳

東平遺跡（郡家）について

富士市の古墳分布地図

古墳時代とは

古墳時代は前方後円墳など土を盛り上げた古墳（墓）が造られた時代で、西暦250年ころから600年ころまで続き、前期・中期・後期に区分されています。政治の中心は近畿地方におかれ、その統治機構は一般的に「倭王権（わおうけん）」や「大和朝廷（やまとちょうてい）」などと言われています。

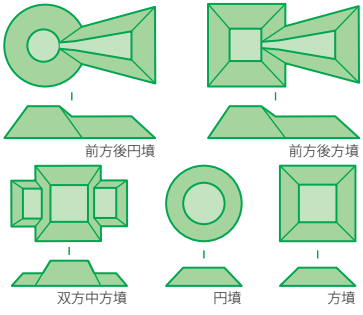
大型の古墳を造ることは、それこそが権威の象徴であり、日本列島各地に次々と前方後円墳をはじめとした古墳が造られました。

古墳は、当時の死生観だけでなく政治や社会、技術など様々な社会的な背景を示す側面を備えており、古墳や副葬品の分析をすることは当時の社会がどのようなものであったかを知ることにつながります。

古墳時代が終わり、飛鳥時代や奈良時代には、日本列島は東アジア情勢の強い影響を受け、中央集権的な国家体制に向かいます。その前段階の古墳時代において、どのような変化があったのかを知ることは、国家のあり方を考えるうえでも重要な視点と言えます。

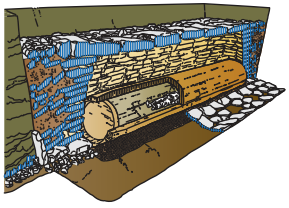
古墳の形

富士市内には前方後円墳をはじめ、前方後方墳、円墳が見られ、双方中方墳とされているものもあります。その大部分は、直径10m前後の円墳と考えられています。

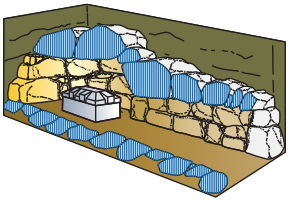


古墳の埋葬施設

遺体を葬る埋葬施設には「竪穴系」と「横穴系」があり、富士市域の「横穴系」は6世紀後半からつくられるようになります。



竪穴系（図は竪穴式石室）
墳丘の頂部に竪穴を掘り、石などで壁を整え、木製や石製の棺を納めて、上部をふさぎます。
一度ふさぐと開けられないので、一度しか埋葬できません。

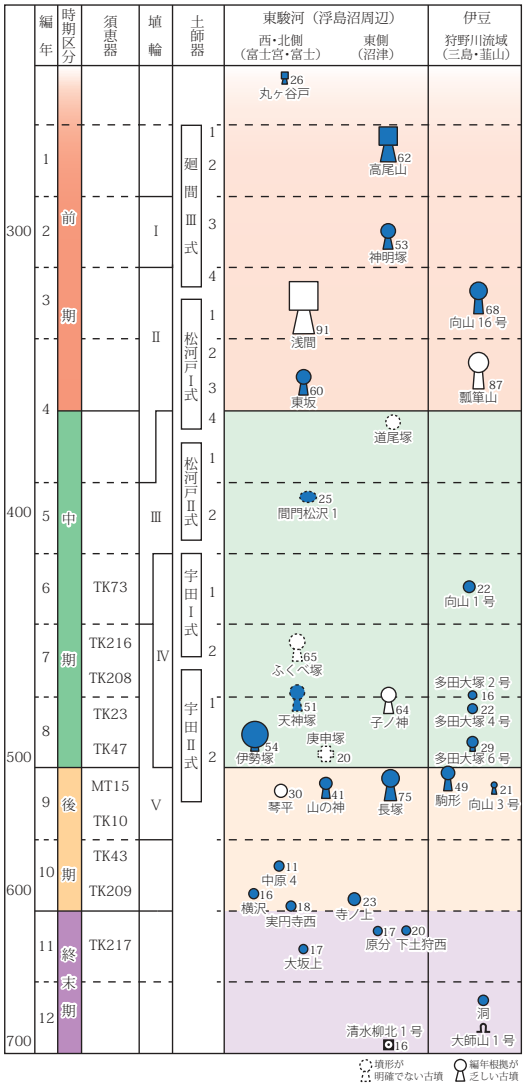


横穴系（図は横穴式石室）
墳丘の側面に開口部がある石の部屋をつくり、中に棺を置きます。
出入りができるので、複数回（人）の埋葬が可能となります。

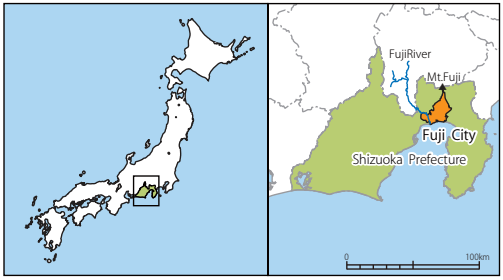
静岡県東部の古墳編年

現在の静岡県は、律令制下の国名でいうと「遠江国」と「駿河国」、「伊豆国」に該当し、駿河国富士郡と駿河郡の一部が現在の富士市となります。さらに、河川や平野など地理的要因や古墳のまとまりから、東駿河（富士市・沼津市など）、中駿河（静岡市など）、西駿河（焼津市・藤枝市など）に分けて捉えることができます。

東駿河で一番最初に造られた古墳は、沼津市の高尾山古墳と考えられています。また、最大規模の古墳は富士市増川にある浅間古墳（前方後方墳）です。古墳時代中期になると、あまり古墳が造られることはなかったようですが、古墳時代中期の終わりころから後期にかけて富士山南麓や愛鷹山南麓では、数多くの古墳が造られるようになります。



古墳編年表

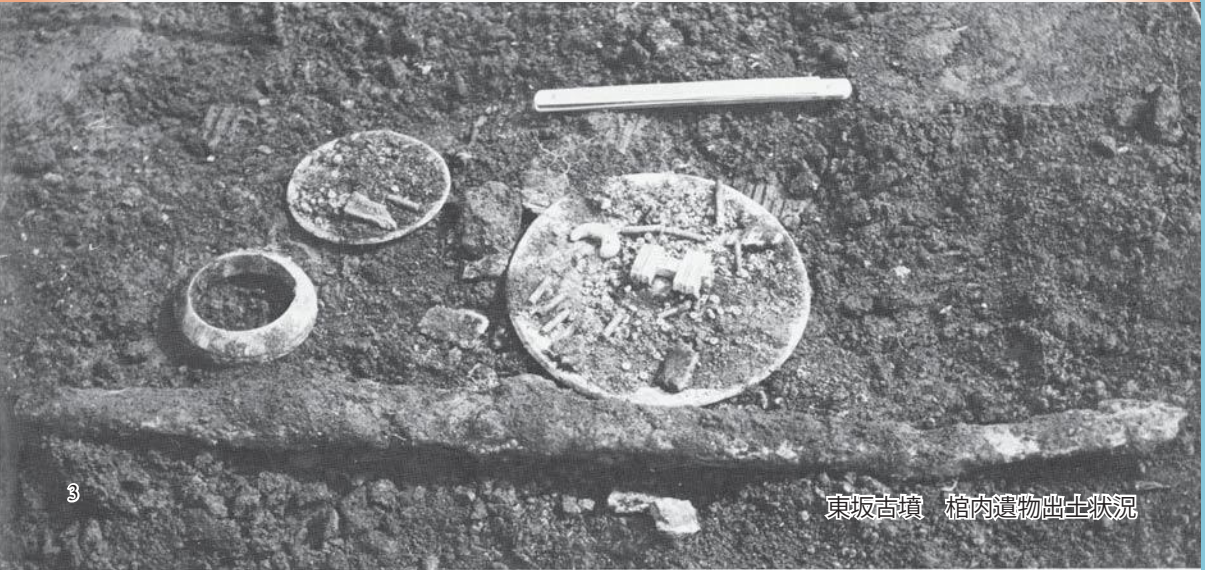


静岡県富士市の位置

第１章
富士の首長墓

古墳時代の富士山南麓・愛鷹山南西麓は、ひとつの地域社会を形成しており、そのリーダーの墓である首長墓の変遷は、この地域が列島内でどのように位置づけられるかを知る上でもっとも重要な情報を提供してくれます。

時期ごとに変化する政治的・社会的要因や自然災害に対応しながら、地域を主導する地域リーダーの逞しい姿を追います。



東坂古墳　棺内遺物出土状況

国指定史跡

浅間古墳（増川Ⅰ－第1号墳）

増川（ＭＡＰ１）存在

90.8 m

？

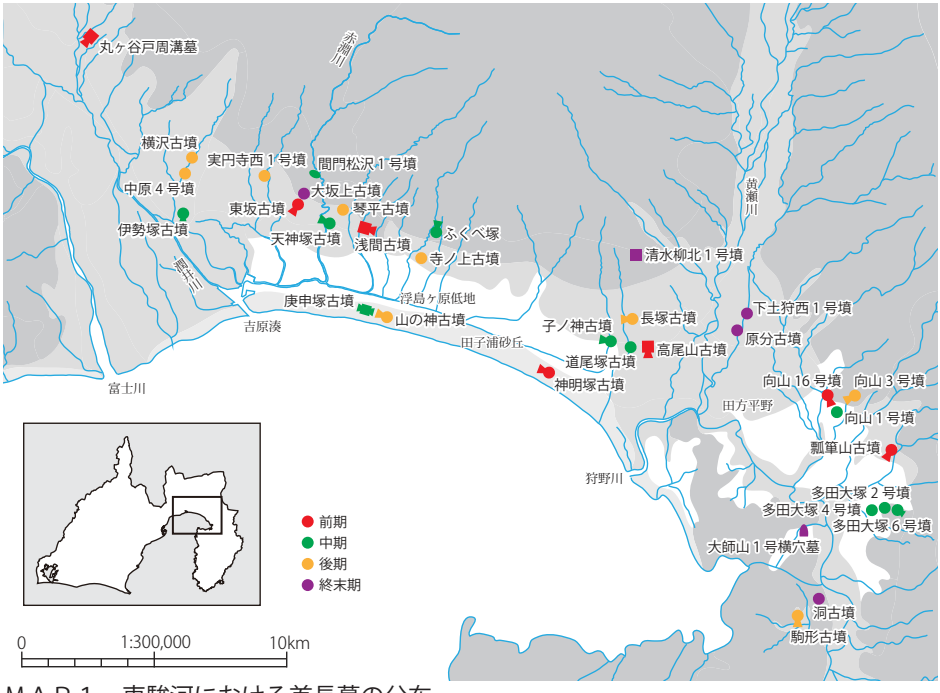
前期後葉

東駿河地域に最初に現れる首長墓は、古墳時代前期前葉に愛鷹山南麓に築かれた、墳丘長62ｍの前方後方墳、高尾山古墳（沼津市東熊堂）です。続く古墳時代前期中葉には、海寄りの田子の浦砂丘上に前方後円墳である神明塚古墳（沼津市松長）がつくられます。

次に築かれるのが、富士市増川に存在する浅間古墳です。古墳時代前期後葉（4世紀中葉）に築かれたと考えられる墳丘長約91ｍを測る大型の前方後方墳です。前方後方墳としては静岡県内でも最大の古墳であり、昭和32年7月に国指定史跡となりました。

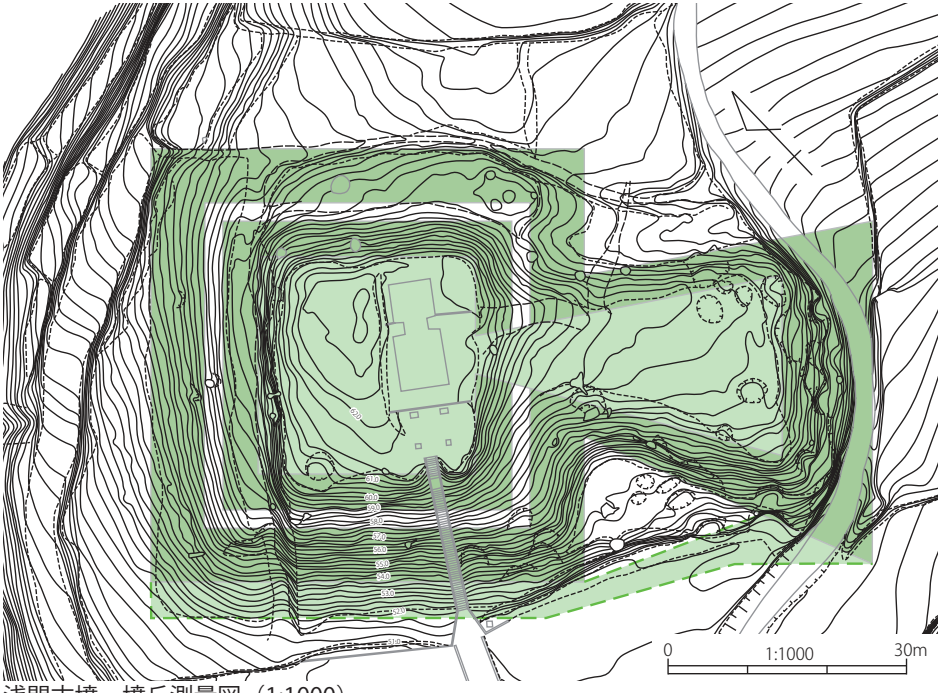
発掘調査が行われていないため、埋葬施設については明らかではありませんが、墳丘の表面が葺石で覆われていたと考えられます。

この地域を治める者の墓として、南に広がる浮島ヶ原や駿河湾からよく見えるように意識して造られた巨大な首長墓です。



ＭＡＰ１　東駿河における首長墓の分布

浅間古墳　全景（南から）



浅間古墳　墳丘測量図（1:1000）

市指定文化財

東坂古墳（比奈G－第1号墳）

比奈（MAP1）
消滅

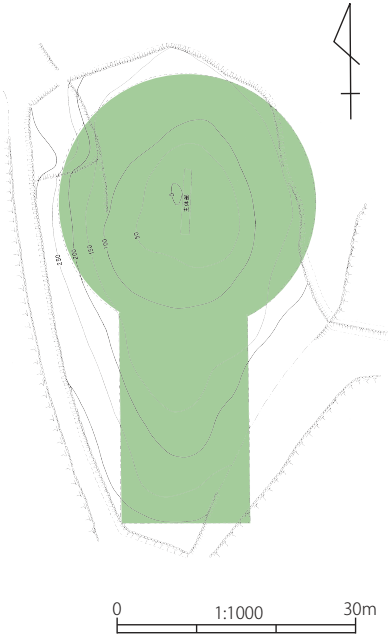
60 m
粘土床
前期末

浅間古墳に続く首長墓は、比奈の丘陵先端に築かれた東坂古墳です。浅間古墳が国指定史跡となった直後の昭和32年10月、県立吉原工業高等学校建設工事の際に発見され、発掘調査が行われました。

発見当時、すでに墳丘は耕作などにより著しく削り取られていましたが、残存部から、墳丘長約60mを測る前方後円墳であることが確認されました。また、後円部中央には、溶岩礫を敷いた上に粘土を敷き、そこに遺体を納めた木棺を置く、「粘土床」と呼ばれる埋葬施設が残っていました。

遺体とともに木棺に納められた副葬品は、内行花文鏡1面、四獣鏡1面、大刀・剣4振、勾玉3個、管玉18個、臼玉843個、ガラス小玉16個、琴柱形石製品3個、石釧1個などで、これらの副葬品の特徴から、東坂古墳は古墳時代前期末に築かれたと考えられます。昭和44年8月に富士市指定文化財に指定されています。

東坂古墳　出土遺物



東坂古墳　墳丘測量図（1：1000）

間門松沢第1号墳

間門
（ＭＡＰ１）
消滅
●か■
20～25ｍ
木棺直葬
中期前半

間門松沢（まかどまつざわ）第1号墳は、新東名高速道路建設に伴う調査で発見された、古墳時代中期前半の古墳です。

溶岩を削り出して造った墳丘に、木棺を納めた「木棺直葬（じきそう）」の埋葬施設が3基並んでいました。

出土した鉄剣は、弥生時代の剣と共通する特徴をもっています。また、古墳の立地や形がこれまでの首長墓と異なることなどから、新たな集団によりつくられた古墳である可能性も考えられています。

間門松沢第１号墳　全景

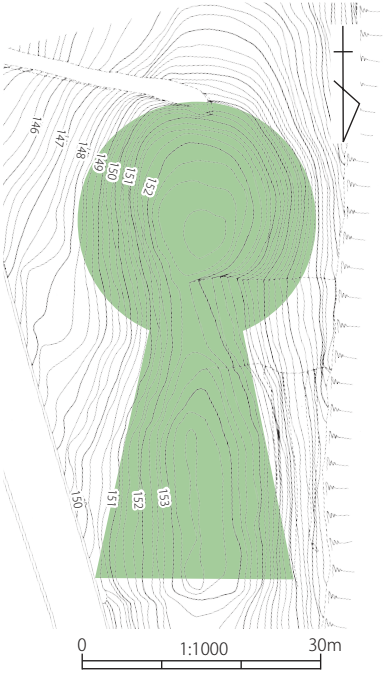
間門松沢１号墳出土　鉄剣
レントゲン写真で見える刀身に開いたふたつの孔が弥生時代の剣にもみられる特徴です。

ふくべ塚（船津Ｌ－第8号墳）

船津
（ＭＡＰ１）
存在
🔑か●
60ｍか30ｍ
？
中期

墳丘長60ｍの前方後円墳、あるいは径30ｍの円墳と考えられる、船津地区で最大級の古墳です。

かつて、小銅鏡や石製刀子（とうす）などが出土したと伝わりますが、実態は明らかではありません。



ふくべ塚　墳丘測量図（1:1000）

ふくべ塚出土とされる乳文鏡

天神塚古墳
（中里K－第91号墳）

中里
（MAP１）
存在
か
51 mか 32 m
？
中期末～
後期初頭

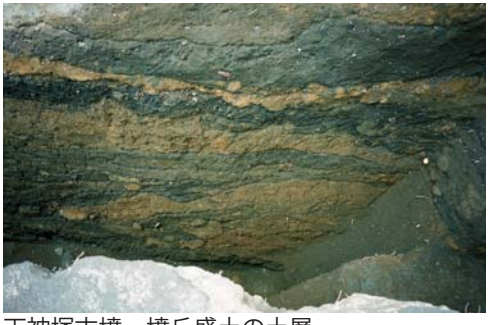
天神塚（てんじんづか）古墳は中里に存在し、墳丘長約51ｍの前方後円墳、または径約32ｍの円墳と考えられています。

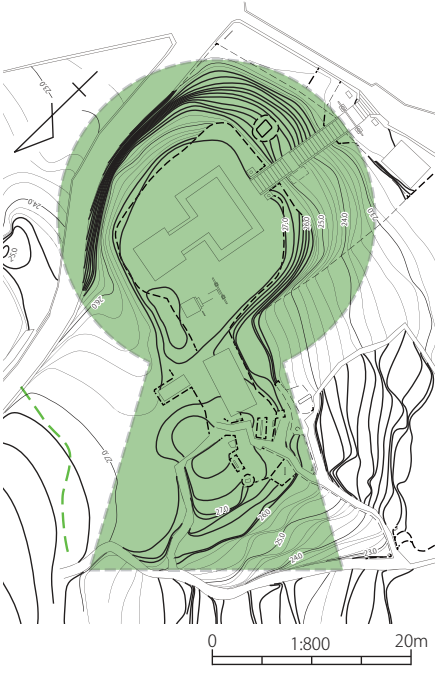
埋葬施設は確認されていませんが、墳丘盛土を調査したところ、３世紀頃から５世紀末という長期間にわたる時期の土器が見つかりました。さらに墳丘の土層観察では、墳丘盛土の下に、５世紀末頃の富士山噴火により富士市域に降った「大淵スコリア」という火山灰の自然堆積層が確認されました。

このことから、天神塚古墳がつくられる前にはここに人々が生活する集落があり、５世紀末の富士山噴火で集落が火山灰に覆われた後、５世紀末から６世紀前葉頃に、周囲の土を削って天神塚古墳が築かれたことが分かりました。

天神塚古墳の北西450ｍほどにかつて存在した寺屋敷（てらやしき）古墳では埴輪が出土したと言われており、天神塚古墳に続く、古墳時代後期中葉の首長墓と考えられます。

天神塚古墳　全景（南から）


天神塚古墳　墳丘盛土の土層



天神塚古墳　墳丘測量図（1:800）

県指定史跡

琴平古墳（中里K－第2号墳）

中里（MAP1）存在

●

29.5 m

？

後期

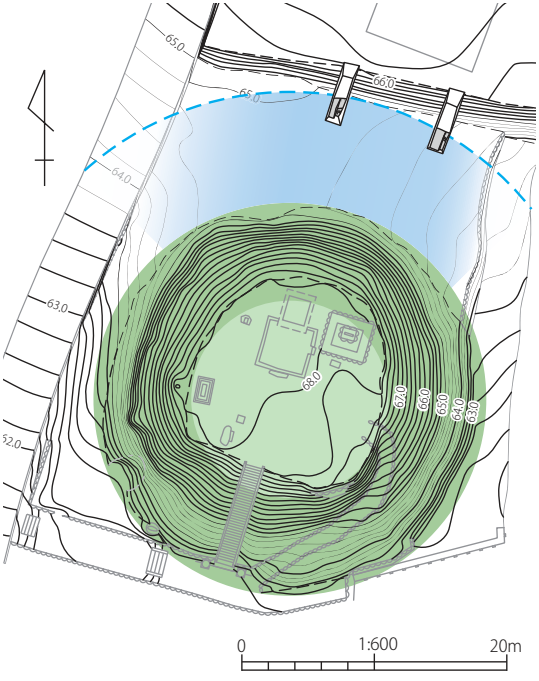
琴平古墳は須津川の西岸、愛鷹山麓の丘陵上に存在する墳丘径約30mの円墳です。埋葬施設は確認されていませんが、墳丘の北側では幅8.5m、深さ75cmの周溝が確認されています。周溝内に溜まった土（覆土）の最下層に「大淵スコリア」が含まれていること、埴輪が置かれていないことから、古墳時代後期頃につくられた古墳と考えられます。

須津川西岸には約70基の古墳が築かれていましたがすでに大半が消滅しています。琴平古墳の東に存在したアガリット古墳（中里K-第78号墳）では、大刀3振や馬具とともに直径約9cmの銅鏡（乳文鏡）が出土しており、この鏡は現在、東京国立博物館に収蔵されています。

琴平古墳　全景（北西から）

琴平古墳　周溝堆積土層（北から）

周溝の外側の立ち上がりが確認されました。
画面奥に墳丘の立ち上がり（裾）が見えます。



琴平古墳　墳丘測量図（1:600）

市指定史跡

山の神古墳

（東田子浦砂丘M－第2号墳）

東柏原新田（MAP1）存在

41.5 m

？

後期

山の神古墳は、田子の浦砂丘上に存在する6世紀前葉から中葉頃の前方後円墳です。墳丘の南側は鉄道線路により削られて失われていますが、後円部径約21m、墳丘長約41mと推定されます。後円部の周りには幅約7mの周溝が確認されました。

埋葬施設は未確認ですが、墳丘には葺石が貼られ、周辺からは埴輪の破片が出土しています。

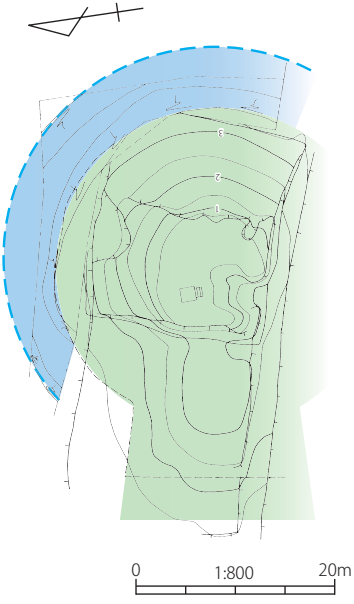
山の神古墳から100mほど西には県指定史跡である庚申塚古墳が存在します。こちらも埋葬施設は未確認ですが、埴輪が見つからないことから、山の神古墳よりも古く、古墳時代中期後葉から後期前葉（5世紀後半から6世紀前半）の古墳と考えられています。

山の神古墳　全景（南から）

山の神古墳　出土埴輪

山の神古墳では、人物埴輪や馬形埴輪、円筒埴輪が見つかっています。

富士市の伊勢塚古墳、沼津市の長塚古墳とともに、駿河で初めて埴輪を取り入れた首長墓と考えられています。



山の神古墳　墳丘測量図（1:800）

第２章
横穴式石室

「竪穴系埋葬施設」に変わり、この地に新たに伝わった「横穴式石室」の登場は、それまでの死生観を一変させ、古墳で行われる儀式や古墳の規模にも大きな変化をもたらしました。また、それまで古墳に埋葬されることのなかった階層のひとびとまでも古墳に埋葬されることとなり、それまでよりも小さい古墳が密集して造られる時代を迎えます。

「群集墳」時代の幕開けです。

群集する古墳（船津古墳群）

市指定史跡

千人塚古墳（須津J－第10号墳）

神谷（MAP２）存在

●

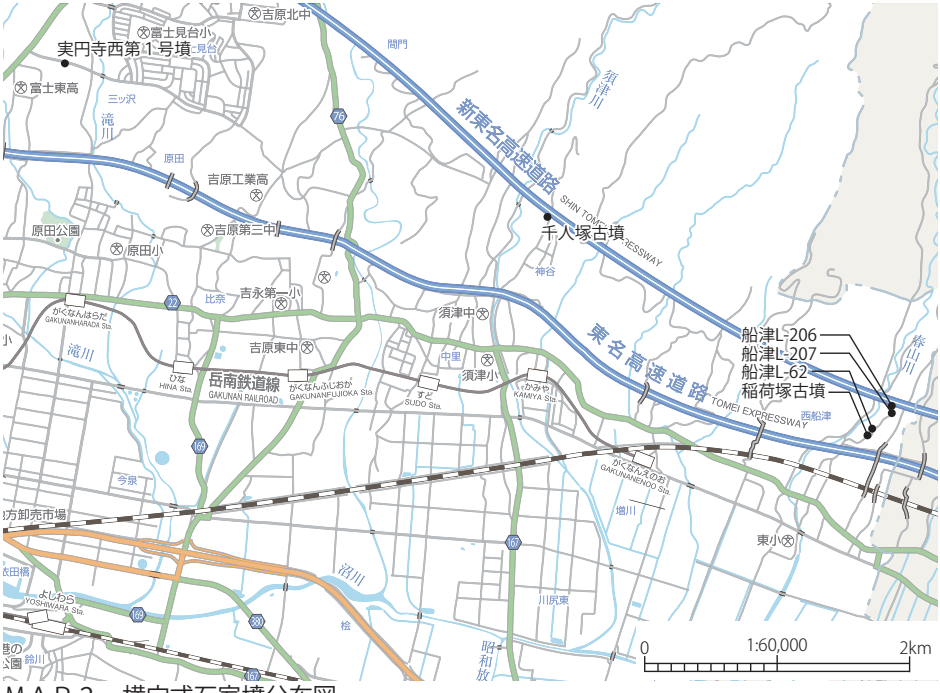
20ｍ
横穴式石室
７Ｃ前～中

千人塚古墳は、須津川東岸に存在する横穴式石室を埋葬施設とする古墳です。７世紀前半から中頃に築かれたと考えられています。

横穴式石室は、全長約11ｍ、高さ２ｍ以上となる大型のものですが、墳丘の盛土はほとんどがすでに失われており、発掘調査によってわずかに確認された周溝から、径約20ｍの円墳であったと推定されています。

石室内には、板状に割った石を組み合わせてつくった３基の箱形石棺が据えられ、副葬された武具や馬具、須恵器などが残っていました。出入口がある部屋のような構造の横穴式石室は最初の一度（初葬）だけでなく複数回の埋葬（追葬）が可能であり、千人塚古墳でも少なくとも３人が埋葬されたとみられます。

須津川の東岸には、約120基の小規模な古墳が密集していたとみられ、千人塚古墳はその古墳群をつくった集団のリーダーの墓であると考えられます。



ＭＡＰ２　横穴式石室分布図

千人塚古墳　全景（南西から）

千人塚古墳　出土遺物

千人塚古墳　奥壁前から開口部を望む

千人塚古墳　石棺

船津古墳群

愛鷹山南麓を流れる春山川の両岸には、約200基の古墳がつくられており、これらを「船津（ふなつ）古墳群」と総称しています。

丘陵上や丘陵斜面には、古墳時代中期後半から後期に首長墓が築かれ、それより低位置の河岸段丘上には、後期以降の横穴式石室墳が群集してつくられます。

群集する横穴式石室墳
この調査区内に10基の古墳が存在し、道路を挟んだ茶畑でも5基の古墳が確認されています。
画面左奥が稲荷塚古墳です。

市指定史跡

稲荷塚古墳（船津L－第73号墳）

船津（MAP2）存在
●
9m
横穴式石室
後期

稲荷塚（いなりづか）古墳は、春山川東岸の河岸段丘上に位置します。墳丘盛土はほとんど失われていますが、全長6m、高さ1.2mの横穴式石室が現存し、墳丘径約9mの円墳であったと推定されます。昭和51年7月に富士市の指定史跡となりました。

稲荷塚古墳の近くでは6世紀末から8世紀にかけて築かれた15基の古墳が確認されています。これらの石室は全長6mから2m以下まで規模に差があり、つくられた時期が新しくなるにつれて、石室が小さくなると考えられます。

稲荷塚古墳　全景（南から）

船津L－第62号墳

船津
（MAP２）
消滅

●

約12ｍ？
横穴式石室
７Ｃ中葉

稲荷塚古墳の北東55ｍほどに位置し、墳丘はほぼ失われていましたが、全長約６ｍの横穴式石室が良好に残っており、径12ｍほどの円墳と推定されています。

石室内から武具や馬具、工具、装身具といった豊富な副葬品が出土しました。これらの副葬品から、７世紀中葉に築かれた古墳と考えられます。

船津 L- 第 62 号墳　出土遺物

船津L－第206号墳

船津
（MAP２）
一部存在

？

？
横穴式石室
６Ｃ末～７Ｃ初

発見・調査が部分的なため、石室の全体像は不明ですが、副葬された大刀や鉄鏃（てつぞく）、耳環（じかん）、須恵器（すえき）が出土しました。６世紀末から７世紀初頭につくられた古墳と推定されます。

船津 L- 第 206 号墳出土の須恵器

船津L－第207号墳

船津
（MAP２）
消滅

●

７ｍ？
横穴式石室
７Ｃ

石室の床面から、線状（せんじょう）貼付（はりつけ）ガラス玉とメノウ製勾玉（まがたま）、水晶製切子玉（きりこだま）、碧玉製管玉（へきぎょくせいくだたま）、蛇紋岩製小玉（じゃもんがん）、ガラス製丸玉・小玉、総数41点が出土しました。

出土玉類
中央にある、ひとまわり大きな白い線の入った青い玉が「線状貼付ガラス玉」です。

市指定史跡

実円寺西第1号墳（一色D－第34号墳）

三ツ沢（MAP２）存在

●

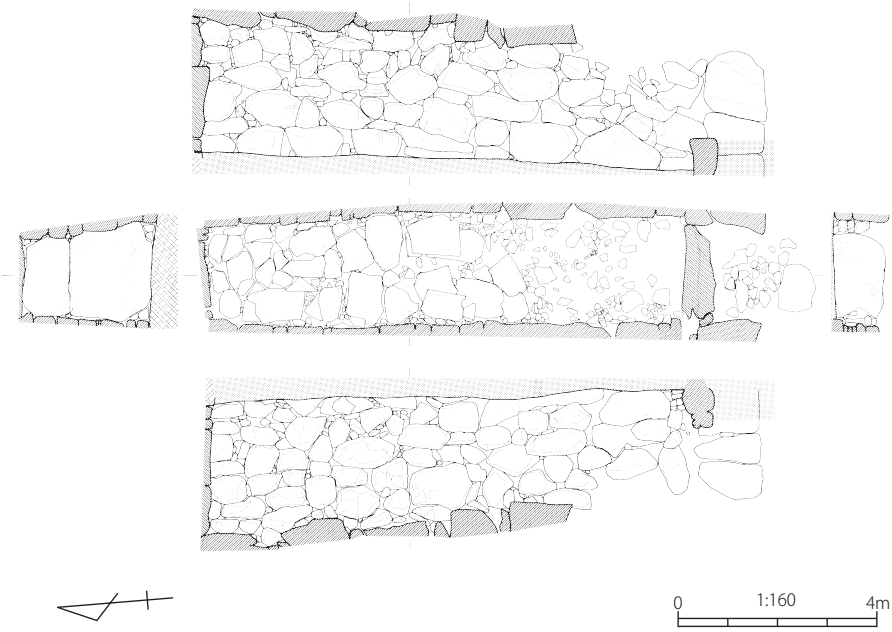
17.5ｍ
横穴式石室
７Ｃ前半

三ツ沢に存在する実円寺西第1号墳は、横穴式石室を埋葬施設とする墳丘径17.5ｍの円墳です。昭和61年に古墳保存のための修復工事が行われ、現在は公園として整備されています。

横穴式石室は全長約11ｍ、高さ2.5ｍを測る大型のものです。床の敷石が3面重ねられていたことから、少なくとも2回の追葬が行われ、その時に床を新しく整えたようです。現在石室内に残る床には、板状に割った石が敷かれています。納められていた箱形石棺を解体して使用した可能性も考えられます。

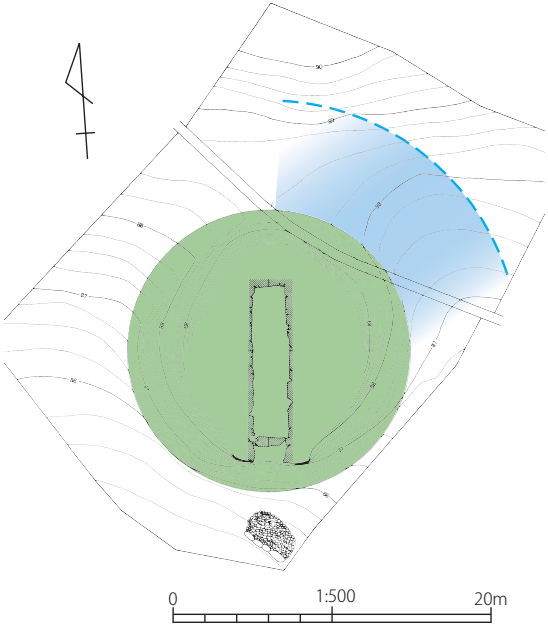
盗掘にあっており、数点の土器片と鉄鏃のほか、副葬品はほとんど残っていませんでしたが、石室の規模からすると地域の有力者の墳墓であったと考えられ、本来は豊富な品物が副葬されていたことが想像されます。土器は7世紀中頃のもので、古墳が築かれたのはそれより前の7世紀前半とみられます。

実円寺西第１号墳　墳丘全景（南から）



実円寺西第 1 号墳　石室展開図（160 分の 1）

実円寺西第 1 号墳　石室内部



実円寺西第 1 号墳　墳丘測量図（1:500）

富士川西岸の古墳群

富士川西岸域の古墳は、岩淵地区と中之郷地区の大きく2か所に分布しています。このうち、岩淵の小山丸山古墳と中之郷の小池丸山古墳が、未調査ではありますが、古墳時代中期以前の古墳とみられています。

発掘調査が行われた室野坂・谷津原・妙見・山王の各古墳群では、古墳時代後期から終末期の比較的小規模な横穴式石室墳が密集してつくられています。

ＭＡＰ３　富士川西岸の古墳群分布図

谷津原古墳群

岩淵
（ＭＡＰ３）
●
６～17ｍ
横穴式石室
６Ｃ後～８Ｃ前

谷津原古墳群は、東名高速道路富士川サービスエリア北西の丘陵上に位置します。50ｍ×150ｍほどの範囲に、横穴式石室を埋葬施設とする17基の古墳が密集してつくられていました。

古墳群発見のきっかけとなった谷津原１号墳では、石室については未調査ですが、金銅装単龍環頭大刀柄頭や大刀２振、銅釧（腕輪）１組などが出土し、谷津原古墳群の中で最も古い６世紀後半の古墳と位置づけられています。

谷津原古墳群は６世紀後半から８世紀代にかけて築かれますが、時期が新しくなるにつれて石室が小型化していく傾向があります。

谷津原１号墳出土
単龍環頭大刀柄頭

室野坂古墳群

岩淵
（MAP３）
？
？
横穴式石室
７C後〜８C

谷津原古墳群の西の山稜斜面上に位置し、横穴式石室をもつ古墳30基が調査されています。全長５ｍを超える大型の石室をもつ３基の古墳と、それを取り囲むように規模の小さな石室をもつ古墳が築かれています。大型石室の古墳では周溝や外護列石などが確認され、馬具や銀象嵌の施された刀装具も出土しています。

墓前での祭祀に使われたとみられる８世紀前半の土器が見つかっていることと、石室の構造などから、７世紀後半から８世紀代に築かれた古墳群と考えられます。

室野坂古墳群から富士山を望む

妙見古墳群

岩淵
（MAP３）
？
？
横穴式石室
８C

室野坂古墳と同じ山稜上、谷を挟んだ南側に位置する妙見古墳群では、横穴式石室をもつ８世紀代の古墳32基が調査されています。石室規模は小さく、石室長４ｍ以下から1.5ｍほどで、５ｍほどの間隔で密集して築かれています。最大規模の石室をもつF1号墳には組合式箱形石棺が置かれていたとみられ、石室内からは方頭大刀の柄頭が出土しています。

また、I2号墳、I14号墳からは骨壺のような蓋つきの須恵器壺（有蓋短頸壺）が出土しており、火葬という新しい埋葬方法を取り入れた、奈良時代の役人層の墳墓である可能性も考えられています。

妙見 I2 号墳・I14 号墳出土
須恵器有蓋短頸壺

古墳に副葬された宝物

花川戸第 4 号墳

花川戸第 4 号墳出土
銀装圭頭大刀柄頭

平成 23 年の試掘調査で新たに発見された古墳の石室から姿を現した、大刀の柄頭。石室は現地に保存されており、それ以上の調査はされていません。圭頭大刀の製作年代は限られており、特徴から 6 世紀末から 7 世紀初頭の製作と考えられます。

大坂上古墳
（比奈G - 第 28 号墳）

大坂上古墳出土
方頭大刀・鉄鏃・須恵器

7 世紀末から 8 世紀初頭の方頭大刀が特徴。飛鳥の官営工房で製作されたものと考えられ、奈良時代直前の古墳と考えられます。

中里大久保古墳
（中里K - 第 95 号墳）

中里大久保古墳出土
金銅装圭頭大刀刀装具

昭和 46 年に発見された出土遺物の一部。刀装具が金銅装で作られている。7 世紀初頭の製作と考えられています。

下白沢古墳
（富士岡F - 第 48 号墳）

下白沢古墳出土　内行花文鏡

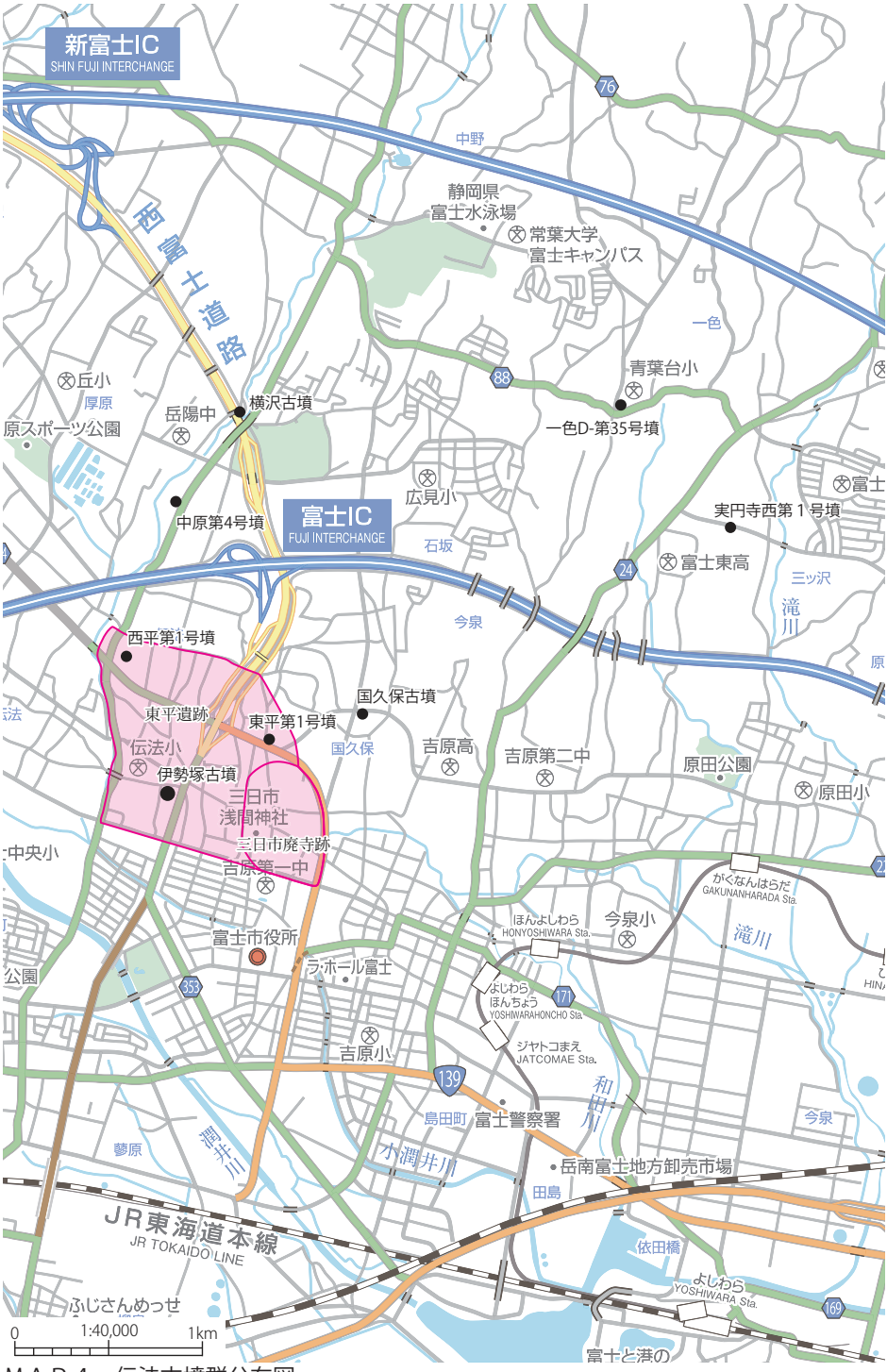
古墳時代後期の横穴式石室と考えられる古墳から出土した直径 12cm の鏡。製作自体は古墳時代前期中葉と考えられ、富士市内でもっとも古い鏡か。近畿地方で作られたものと考えられますが、なぜ古い鏡が横穴式石室から出土するのかは、未だ明らかではありません。

第３章
地域開発のあゆみ

河川の氾濫など水害により人々が居住するには適していなかったエリアが、新たなリーダーの出現により居住域として開発される。その背景には倭王権の影響力により先進地域から新たな知識が導入された結果などの要因が考えられる。

その後、この地には代々多くの古墳が造られ、特殊な副葬品も出土する。リーダーが導入した鉄生産をはじめとした手工業生産技術は、この地の発展を決定付けたとも言え、その主導者の墓がここにある。

伊勢塚古墳を南から望む



ＭＡＰ４　伝法古墳群分布図

県指定史跡

伊勢塚古墳（伝法A－第1号墳）

伝法（MAP4）存在

●

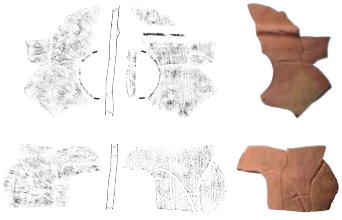
54ｍ
？
後期初頭

伝法に存在する伊勢塚（いせづか）古墳は、墳丘径54ｍを測り、墳丘の中腹に平坦面（段）をもつ「二段築成」の円墳です。墳丘には葺石が貼られ、幅7～8ｍの周溝がめぐるとみられます。

埋葬施設は確認されていませんが、円筒埴輪の破片や、巫女の姿と思われる土製の人形、土器片などが見つかっており、これらの出土品から古墳時代後期初頭（6世紀初頭）に築かれた古墳と考えられます。

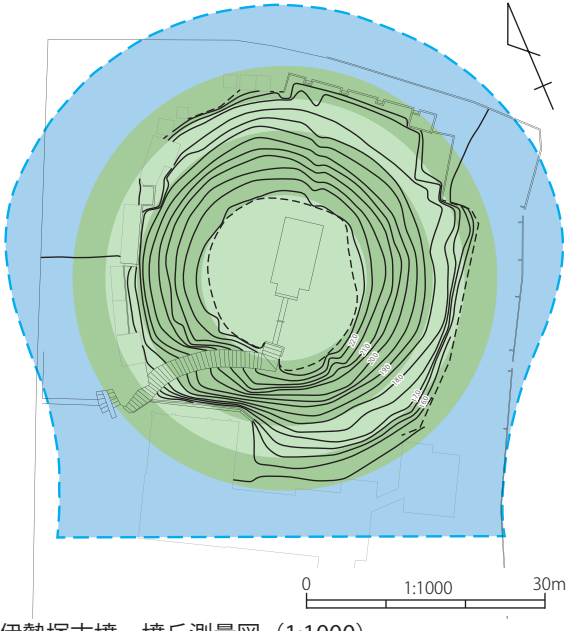
伊勢塚古墳が立地する潤井川東岸地域では、伊勢塚古墳より以前に築かれた古墳はなく、この地域に新たに現れ開発をおこなった集団の最初の首長墓であると考えられます。

伊勢塚古墳出土　埴輪・人形
中央手前が、土製人形の破片です。



伊勢塚古墳　出土埴輪（1:10）

伊勢塚古墳　出土坏（1:5）
須恵器の蓋を模倣した土師器の坏です。
この土器から築造時期を判断しています。



伊勢塚古墳　墳丘測量図（1:1000）

市指定文化財

中原第４号墳

伝法
（ＭＡＰ４）
消滅

●

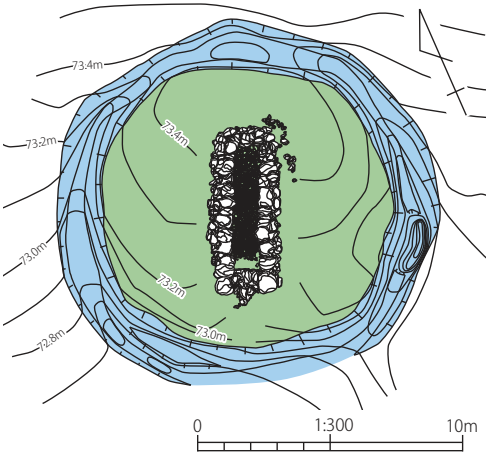
11ｍ
横穴式石室
６Ｃ後半

伊勢塚古墳から北に1.5kmほど上った伝法沢川東岸に存在した中原第４号墳は、６世紀後半に築かれた横穴式石室を埋葬施設とする径11ｍの円墳です。

石室が良好に残り、盗掘の被害を受けていないため、埋葬当時の様子を知ることができました。

横穴系の埋葬施設は中国や朝鮮半島から伝わったもので、中原第４号墳は東駿河地域で最も早く横穴式石室を取り入れた古墳です。石室は地面を長方形に掘り下げた穴（墓坑）の中につくられているため、石室入口より床が低くなります。このように、入口に段を設け、石室の床を外よりも低くつくる「段構造」は、東駿河地域の横穴式石室に特徴的な構造です。地下につくられる中国や朝鮮半島の埋葬施設に似ていることから、渡来系の人々との関わりも考えられます。

残されていた副葬品は、装身具（玉類）、武具（大刀・剣・鉄鏃）、農工具（鎌・斧・鉇・鑿など）、鍛冶具・生産用具（鉄鉗・鑷子・針）、馬具（轡・鐙など）・土器と、総数661点を数え、多種多量の副葬品からも、葬られた人の姿が見えてきます。注目されるのは農工具や鍛冶具・生産用具が多数副葬されている点で、鉄器の生産・加工を含む手工業技術をもつ集団の統括者だったと推定されます。また、武具や馬具からは畿内の倭王権との軍事的な結びつきもうかがわれます。



中原第４号墳　平面図（1:300）

中原第４号墳　検出全景（南から）

遺物の出土状況（中央から奥壁側）

遺物の出土状況（中央から開口部側）

中原第４号墳　石室（南から）

中原第４号墳の出土品は、古墳に葬られた人の姿とそこから見える当時の富士市域の姿を現代に伝える貴重な資料として、富士市指定文化財になっています。

出土した生産用具

出土した玉類

中原第４号墳　出土遺物

横沢古墳

大淵
（ＭＡＰ４）
消滅

●

16ｍ
横穴式石室
６Ｃ末～７Ｃ初

横沢古墳は、中原第４号墳から北東に約600ｍ、伝法沢川西岸の丘陵先端部に築かれた直径16ｍの円墳です。昭和53年、西富士道路の建設工事に先だって発見され、発掘調査が行われました。

墳丘には葺石が貼られ、幅１ｍほどの周溝がめぐります。埋葬施設は全長8.5ｍ、幅２ｍの横穴式石室で、３面の床が確認されました。また、部分的に崩れた墳丘と石室を修復していることもわかりました。

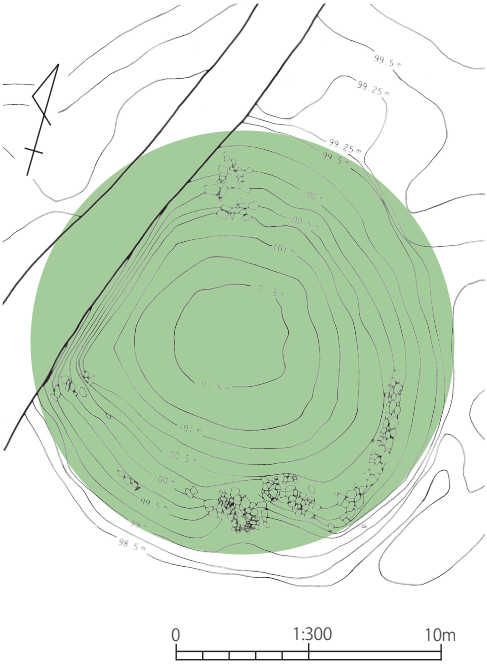
石室内からは、須恵器の坏と蓋のセット６組と高坏・提瓶・瑳などの土器、大刀や鉄鏃などの武具、轡などの馬具とともに、金銅製の鈴が５点出土しました。

横沢古墳は、石室の規模や副葬品の内容から、６世紀末から７世紀初頭に築かれた古墳とみられ、中原第４号墳に続く有力者の墳墓と考えられます。

現在は、広見公園内に移築され、築造当時の姿が復元されています。

横沢古墳　発見当時の様子

横沢古墳出土　金銅製鈴
形も大きさも揃った５つの鈴がまとまって出土しました。



横沢古墳　墳丘測量図（1:300）

国久保古墳

国久保（MAP４）
存在
●
８ｍ？
横穴式石室
７Ｃ初頭

国久保古墳は、平成13年に国久保の住宅地で新たに発見された7世紀初頭の横穴式石室です。墳丘は失われていましたが、調査時に周溝が確認され、径８ｍほどの円墳であったと推定されています。

発見時のまま現地に保存可能となったため、石室を解体する調査は行っていませんが、床面から、大刀の鍔や、50点以上の鉄鏃、馬具の轡、鉄鐸・耳環・雁木玉を含む玉類といった装身具が出土しました。

鉄鐸は扇形の鉄板を高さ約５cmの円錐形に巻いたもので、本来は内部に舌がつき、鈴のように鳴るものです。鉄器生産技術をもつ渡来系の人々（朝鮮半島から技術や知識をもって日本に来た人達とその一族）に関わる品物とされます。

雁木玉は、赤・黄・緑・白の４色で縞模様をつくった直径１cmほどのガラス製の玉です。国内産ではなく、外国からもたらされたものとみられます。

国久保古墳　出土遺物

国久保古墳　石室全景

雁木玉

鉄鐸

遺物出土状況（左：耳環・刀装具、右：玉類）

東平第1号墳

伝法
（ＭＡＰ４）
消滅

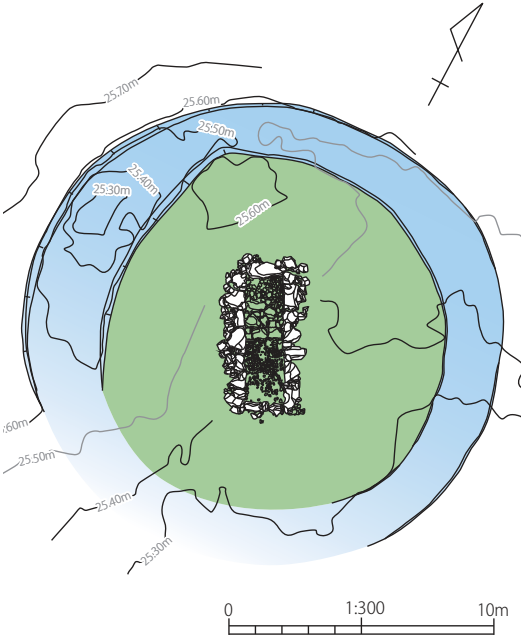
●

13.5ｍ
横穴式石室
７Ｃ中頃

東平（ひがしだいら）第1号墳は、伊勢塚古墳の北東600ｍに位置する7世紀中頃に築かれた古墳です。段構造をもつ横穴式石室と円形にめぐる周溝が残存しており、径約13ｍの円墳であったと確認されました。

石室は床石を敷き直しながら、少なくとも3回埋葬がおこなわれたとみられます。石室内には、「丁字形利器（ていじがたりき）」と呼ばれる特殊な形の鉄器と大刀3振、鉄鏃や弓の金具などの武具、轡や鐙などの馬具、工具や土器片が残っていました。

「丁字形利器」は、全国でも4例しか確認されていない珍しい出土品です。「T」形の板状の鉄器で、「T」の横棒の両端に刃がつき、縦棒の先に握るための柄をつける茎があります。この特殊な形は、朝鮮半島にみられる「枘穴鉄斧（ほぞあなてっぷ）」を装着した武器がもとになっていると考えられていますが、つくりが華奢なため、実用的な武器ではなく、武器の形をした儀礼用の道具（儀



東平第１号墳　平面図（1:300）

東平第１号墳　石室全景（南東から）
３回目（最後）の床面の様子です。
手前（前室）と奥（後室）を区切るために、中央に仕切石を据えています。後室には丁字形利器と大刀３振がまとめて置かれ、前室の壁際には馬具（壺鐙・轡）が置かれています。

器）と位置づけられています。

武具や馬具など、副葬品の多くは、東平第1号墳の初葬者に副葬されたものと見られますが、床石を敷き直して行われた最後の埋葬の際にも、丁字形利器と大刀3振を引き継いで丁寧に副葬し直している様子がみられます。初葬者と追葬者の関係性と初葬者への強い意識がそこに表れているように思われます。

東平第1号墳に埋葬された人物は、中原第4号墳や国久保古墳と同様に、大陸や朝鮮半島と関わりをもち、軍事や手工業生産を行う集団の統率者であると考えられます。

また、8世紀には律令制下での富士郡の中心地（富士郡家（ぐうけ））となる重要な地にその墳墓が築かれるという点からも、地域の最有力者であるということが想像できます。

東平第１号墳　出土遺物

↑東平第１号墳　丁字形利器と大刀の出土の様子
←東平第１号墳　丁字形利器

西平第1号墳（伝法A－第35号墳）

伝法
（MAP４）
一部存在

？

？
横穴式石室
８C前葉

西平（にしだいら）第1号墳は、伊勢塚古墳の北、伝法沢川西岸につくられた横穴式石室を埋葬施設とする8世紀前葉の古墳です。墳丘などはすでに失われ、石室の中央付近を部分的に調査しただけですが、方頭柄頭の大刀と蕨手（わらびて）刀、銅製腰帯具（ようたいぐ）などの副葬品が見つかっています。

古墳に葬られる有力者層が律令制に組み込まれていることを明らかにする副葬品です。

西平第１号墳　出土遺物
鈴具はなく、鉈尾１点、巡方４点、丸鞆４点が出土しました。（奥のベルトは復元品です）

一色D－第35号墳

一色
（MAP４）
消滅

？

？
横穴式石室
８C初頭

現在、青葉台まちづくりセンターが建つ場所に存在した一色（いっしき）D－第35号墳は、横穴式石室に組合式箱形石棺を納めた8世紀初頭の古墳です。墳丘や周溝は確認されませんでしたが、石室内から腰帯具の鉈尾や、方頭大刀の鞘尻につく金具、銀製の装具がつく刀子（とうす）（木を削る小刀）などが見つかっています。方頭大刀は王権のあった飛鳥の工房でつくられた可能性があります。

出土品から、一色D－第35号墳に葬られた人は、この地域の官人（役人）層であったと推測できます。

一色 D- 第 35 号墳　出土遺物

一色 D- 第 35 号墳　石室全景

東平遺跡（郡家）について

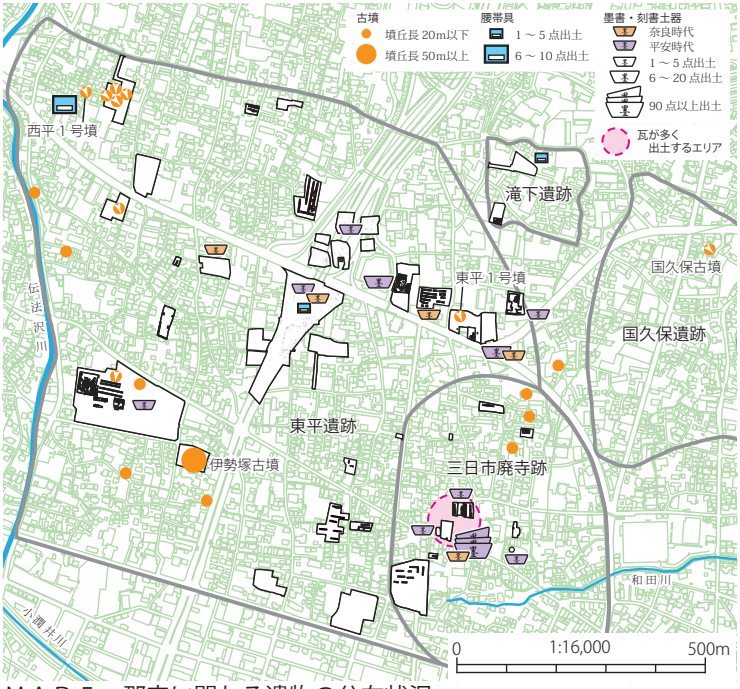
8世紀初めに整えられた律令制のもと、赤淵川より西の富士市域は「駿河国富士郡（するがのくにふじぐん）」と定められました。

郡に関わる役所や倉などの公共的施設の集まりを「郡家（ぐうけ）」と呼びます。伝法地区に広がる東平遺跡では、庇（ひさし）のある大きな建物や倉庫とみられる建物群、寺院の瓦や文字が書かれた土器などが多く出土し、ここに富士郡郡家があったと考えられています。

東平遺跡で出土した8世紀前半の瓦

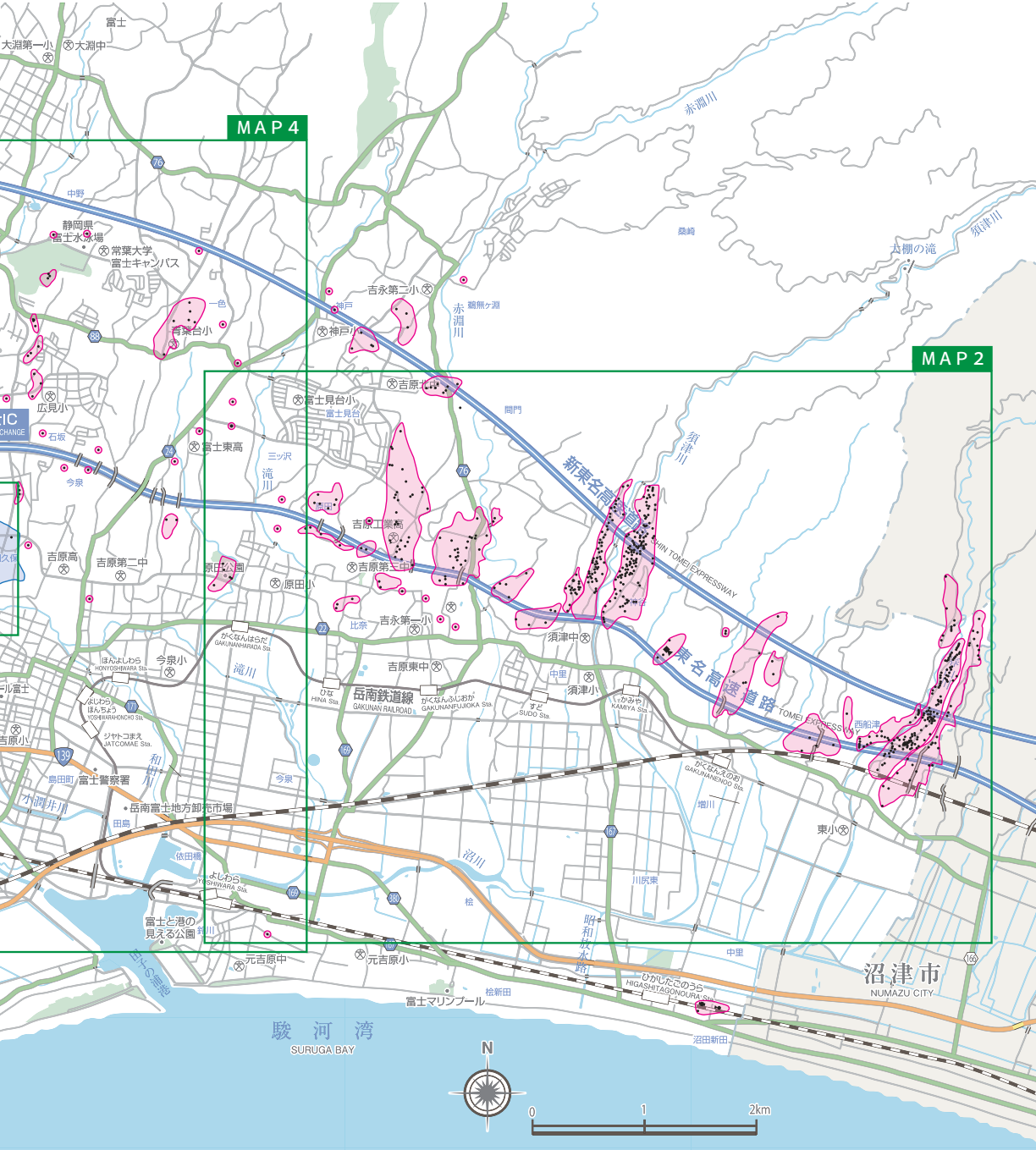
「布自」銘
墨書土器

東平遺跡で出土した須恵器の坏です。底部外面に「布自」と墨書があります。「布自」は「フジ」と読み、「富士郡」または「富士氏」を表すものとみられます。



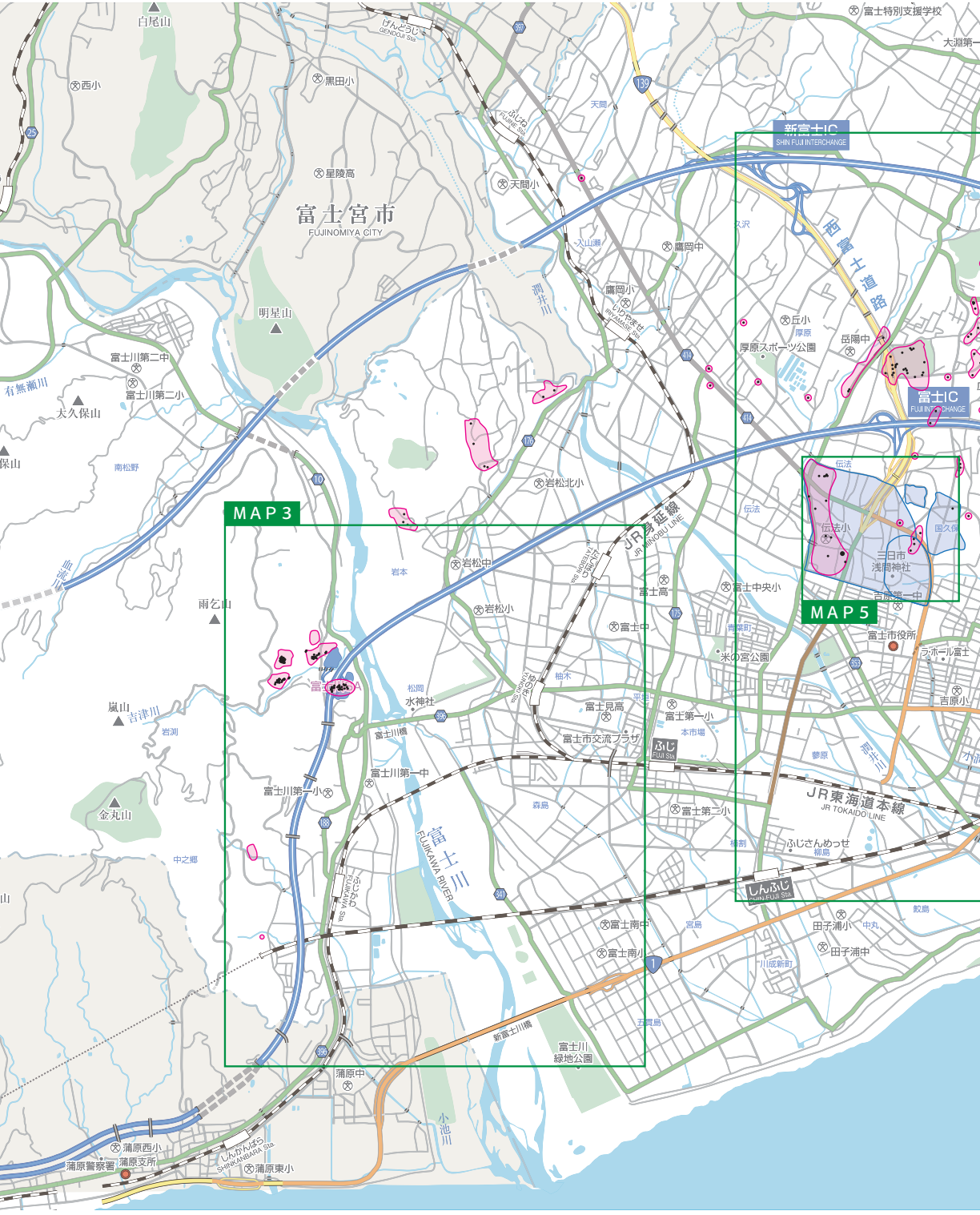
MAP5　郡家に関わる遺物の分布状況

古墳分布地図



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（空間データ基盤）を使用したものである。
（承認番号 平20総使、第266号）

富士市の古墳


MAP 3
MAP 5
富士宮市
FUJINOMIYA CITY
新富士IC
SHIN FUJI INTERCHANGE
富士IC
FUJI INTERCHANGE
西富士道路
JR身延線
JR MINOBU LINE
JR東海道本線
JR TOKAIDO LINE
富士川
FUJIKAWA RIVER
富士川緑地公園
新富士川橋
富士市役所
ラホール富士
三日市浅間神社
富士市交流プラザ
ふじ
FUJI Sta.
しんふじ
SHIN-FUJI Sta.
ふじさんめっせ
富士特別支援学校
大淵第一
白尾山
西小
黒田小
星陵高
天間小
天間
鷹岡中
鷹岡小
明星山
富士川第二中
富士川第二小
有無瀬川
夫久保山
南松野
岩松北小
岩松中
岩松小
岩本
雨乞山
富士高
富士中央小
富士中
米の宮公園
富士見高
富士第一小
富士第二小
富士川第一中
富士川第一小
水神社
松岡
嵐山
吉津川
岩渕
金丸山
中之郷
森島
富士南中
富士南小
田子浦小
田子浦中
吉原小
蒲原中
蒲原西小
蒲原警察署
蒲原支所
しんかんばら
SHIN-KANBARA Sta.
蒲原東小
小池川
厚原スポーツ公園
岳陽中
丘小
伝法小
伝法
久沢
厚原
柚木
平垣
本市場
青葉町
夢原
柳島
宮島
川成新町
五貫島
鮫島
中丸
柳割
天間川
潤井川
富士川橋
富士川
げんどうじ
GENDOUJI Sta.
ふじかわ
FUJIKAWA Sta.

富士の古墳文化

発行年月日　平成 31 年 3 月 31 日

編集・発行　富士市　市民部　文化振興課

〒417-8601 静岡県富士市永田町 1-100

TEL 0545-55-2875　FAX 0545-53-0789

E-mail：si-bunka@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本　文光堂印刷株式会社